

# 2011 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

## 秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2011 年度秋季大会は、10 月 12 日 (水) ～ 10 月 15 日 (土) に静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ及び静岡大学大谷キャンパス学生会館において開催し、1057 名 (会員 764 名, 非会員等 293 名) の参加がありました。2011 年東北地方太平洋沖地震後初めての秋季大会ということもあり、参加者は昨年度の広島大会 (参加者数 782 名, 会員 653 名, 非会員等 129 名) と比較して大幅増となりました。口頭 280 件, ポスター 238 件の合計 518 件の一般講演発表がありました (当日キャンセル分を除く)。

今年度の大きな変更点として、事前参加登録制度と投稿料・参加登録料の導入がありました。ニュースレター 7 月号での理事会からの報告に見られるとおり、近年の日本地震学会の会計は会費収入の減少と支出の増加により非常に厳しい状況となっており、過去の秋季大会開催経費を含む学会会計の赤字分は繰越金から補填されてきました。また、公益社団法人移行に伴い、学会事業は収支相償の原則が適用されます。そのため、理事会において秋季大会における参加登録料 (従来の予稿集購入代を含む) と投稿料の徴収が決定され、今年度の秋季大会より導入されました。昨年度の秋季大会におけるアンケートの結果を踏まえ、大会・企画委員会では秋季大会 WEB システムの機能改修を実施し、従来からの講演申し込みと予稿原稿アップロードに加え、事前参加登録と参加登録料及び投稿料の支払いもウェブサイト上で行う方法としました。事前参加登録を行った会員には予稿集を大会前に発送しました。ウェブサイトでの予稿投稿は ASC と共催であった 2008 年から数えて 4 年目になります。ウェブを通じた投稿がかなり浸透し、投稿受付最終日に WEB システムにアクセスできないとの申し出が何件かあったことや予稿原稿の書式が守られていない事例があったことを除き、ほとんどの講演申込を無事に受け付けることができました。このため、プログラム編成か

ら予稿集印刷までの作業を短期間に効率よく行うことができました。525 件の講演申込があり、522 件を採択しました。また、事前参加登録数は 618 名であり、大会初日の受付がスムーズに運びました。この場を借りてお礼申し上げます。

昨年度と同様、口頭発表会場は 4 会場、口頭発表の時間は質疑応答も含め 15 分としました。若手学術奨励賞受賞者 3 名による記念講演を大会初日に実施するとともに、今大会では 3 件の特別セッションが企画され、活発な議論がなされました。また、4 日目には東北地方太平洋沖地震臨時対応委員会の主催による特別シンポジウム「地震学の今を問う—東北地方太平洋沖地震の発生を受けて—」を開催しました。昨年度より日本地震学会では、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」を設けました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。本年度の審査員は代議員と大会・企画委員会から 23 名が選出され、学生会費適用申請をしているのべ 90 名の発表を審査しました。7 名の授賞者は本ニュースレターにて発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、静岡大学、東海大学、関西大学からなる LOC の皆様に全面的にお世話になりました。昨年の広島大学の LOC に引き続き、少数の LOC メンバーによる運営となりました。静岡大会の円滑な運営はまさに LOC の皆様の献身的なご尽力によるものであり、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。また、一昨年度の京都大会、昨年度の広島大会に引き続き、LOC の大会運営業務の一部を外注しました。LOC 業務の外注には経費がかかりますが、これまでの秋季大会の成功によって皆様の理解が得られているものと信じています。来年度の秋季大会は 2012 年 10 月 17 日～19 日の日程で、函館市民会館及び函館市民体育館を会場に開催される予定です。LOC は北海道大学にお引き受けいただいています。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加をよろしく願います。

たします。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

## LOCからの報告 (LOC)

### 【全体】

2011年度秋季大会は、静岡大学と東海大学、関西大学でLOCを務めました。LOC内で距離が離れてしまいましたが、(1)大会企画委担当・会場・アルバイト・会計＝静岡大、(2)懇親会＝東海大、(3)企業展示・一般公開セミナー・記者レク対応＝関西大で分業できたので特に不都合を感じず進めることができました。静岡で開催するお話をいただいた時は具体的な仕事量の想像もつかずどうなることかと思いましたが、外注業者さんのノウハウと一昨年度京都大会からの引き継ぎ資料のおかげで今大会のLOCの負担は大幅に軽減されたと思います。更に地元で開催したことで静岡大学の地球科学科では普段なら学会に参加しない3・4年生の学部生も広く参加させていただけましたし、アルバイトの学生達には当事者として地震学会に関わる貴重な体験をさせることができ、良い教育機会になったと思います。私たちにとっては大変大きな収穫でした。

他にも良かったことは多々ありましたがミスもありました。口演会場で前2回に引き続きPCによる計時を行いました。事前の計時精度のチェックをしていなかったため、使用した4台のPCすべてで15分の講演が1分以上長く計時されてしまい、座長の皆さんの円滑な進行にも関わらず会場によっては半日で10分超過する事態となりました。A会場以外で2日目以降タイマーの表示が変わったのはこのような次第です(「Q-gakkai」→「学会タイマー」)。また事前の検討の不徹底から領収書の金額印刷ができておらず、大会の前々日に学生アルバイトに急ぎょ手書きで対応してもらったトラブルもありました。例年に比べ多かったマスコミへの対応では取材陣が講演中に皆さんの前を横切ったりうるさかったりしたとの声も聞こえてきました。また4日目の朝の豪雨で会場への交通が混乱したり、500名の参加者に400席の会場しか用意できなかったり、etc…他

にもこちらで気づいていない失敗も少なからずあったかと想像します。まとめてごめんなさい。次回以降に生かしていただきたいと思います。ですがそんな中でも会員の皆さんには自助努力の精神を最大限発揮していただきました。慣れないアルバイトを補ってPC接続のトラブル対応をし、掲示板の掲示が間違っていれば自ら直し、助成金申請のためのホテルの宿泊証明も呼びかけに応じて驚くほど多くご提出いただきました(1,272泊、助成金にして636,000円相当分が集まりました！ご協力ありがとうございました)。4日目の出席者の皆さんで会場を片付けていただいたのも大変助かりました。こうしてなんとか静岡大会を終えられましたこと、大会にご参加いただいた皆さま、ご協力いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。(静岡大学理学部 生田領野)

### 【市民普及行事】

今年の市民普及行事は、例年行っている一般公開セミナーに加えて、高校への出前授業を実施しました。出前授業については6月28日(火)に静岡県立静岡高校にて実施し、その様子についてはニュースレター vol. 23 No. 3に掲載済みです。一線で活躍している研究者に、地震学会開催にあわせて母校で授業をしてもらおうという試みは、地震学への理解を深めてもらうとともに、地域に地震学会開催を広く広報する上で大変効果的であったと思います。

一般公開セミナーは、日本地震学会主催、静岡県・静岡大学共催のもと「東日本大震災に学び東海地震に備える」と題して10月15日(土)午後1時から3時まで秋季大会の会場と同じグランシップにて開催しました。会場手配から広報、当日の運営にいたるまで静岡県危機管理部には大変お世話になりました。こういった機会を通じて行政との連携を深めていくことが重要だと思います。また、広報にあたっては事前記者説明会などの機会を通じて県内の新聞社やテレビ局への依頼も行いました。静岡新聞ではイベント告知のコーナーのみならず、社説などでも取り上げていただくことができました。今年は事前申し込み不要としたため当日になるまで参加者数がわからないという不安はありましたが、最終的にはほぼ会場一杯となる320名の方にお越しいただきました。地震学会の一般公開セミナーは例年80-90人程度のことが多いので今年は3-4倍の参加者数で

あったこととなります。参加者には教師に引率された高校生なども見られ、東日本大震災後の意識の高まりを強く感じました。

(関西大学社会安全学部 林 能成)

#### 大会プログラムの修正 (大会・企画委員会)

##### ○発表のキャンセル

A12-11 粘弾性、間隙弾性及び誤差の共分散成分を考慮した2011年東北地方太平洋沖地震の余効すべり分布

°竹村英紀・佐藤利典(千葉大理)

C22-09 地盤と岩盤の弾塑性変形と破壊が地震研究に与える影響

°阪口 秀・堀 高峰(JAMSTEC)・張 鋒(名工大)

P2-56 弾塑性モデルに基づく水土連成動的有限要素解析を用いた地震荷重による地殻内部応力と過剰間隙水圧の変動予測

°阪口 秀・山本由弦・氏家恒太郎(JAMSTEC)・包 小華・張 鋒(名工大)

P3-70 地震記録を用いた観測点直下の地盤構

造の推定方法の比較：大阪堆積盆地の場合

°堀川晴央(産総研)

##### ○発表形式の変更(口頭→ポスター)

C32-06 → P1-80

PALSARとTerraSAR-Xで捉えた京都盆地・大阪平野の地盤変動

°橋本 学(京大防災研)

##### ○発表者の変更

B11-05 岩石破壊に伴うマイクロ波放射の測定系再構築と測定結果速報

高野 忠・°加藤 淳・平島 舞・三枝健二(日大理工)

C22-12 教員サマースクール2011「地震・火山を学校でどう教えるか」の実施と教員免許状更新講習の開設

数越達也(神戸高)・斎藤 誠(気象庁)・小山真人(静岡大防災総合セ)

岩田孝仁(静岡県危機管理部)・

中川和之(時事通信社)・上西智紀(伊豆総合高)・伊東明彦(宇都宮大教育)・

°根本泰雄(桜美林大自然)・荒井賢一(栄東高)・中島 健(天津清陵高)・美澤綾子(静岡高)・

南島正重(両国高)